

【所信】

今を生きる私たち

さまざまな問題を抱え先行きが見えない苦しい時代だと言われる今を生きる我々世代。確かに、人口減少、少子高齢化、労働人口の減少、貧困格差など解決が容易ではない問題が今なお山積している。我々はそれらを悲観することなく真正面から向き合い解決のため取り組んでいかなければいけない。一方、問題が山積し苦しい時代だと言われて久しい我々も含めた若者世代は、とはいえそれなりに不自由なく生活できている場合も多く、頭では分かっているが実感が無いことも多いのではないだろうか。日本が、地域が抱える様々な問題を若者が実感しにくくなっていること、これは、様々な問題に真正面から向き合い行動する若者が減ってしまう原因になる。「明るい豊かな社会の実現」を目指すということは、地域が求める明るい豊かな社会とは何なのかを探求し、その妨げになっている問題を明確にし、長期的な視点で改善策を考え、そして今その改善につながる活動を未来を担う若者が取り組み、続けていくことで未来を変えていくことだと考える。さらに、その明るさ豊かさとは人の心が感じるものであり、その心の物差しはその時代によって基準が変わり、目指す明るい豊かな社会とは、その時代によって変わることを理解しなければいけない。つまり、その昔目指した明るい豊かな社会と、今目指すべき明るい豊かな社会は同じではないのだ。青年会議所活動とは、その時代のど真ん中を生活している我々青年が感じ、考え、予測することのできる「明るい豊かな社会」を探求し、実現を目指して活動し続けることだと考える。

輝く未来の創造に向けて

一般社団法人上田青年会議所では、認承 50 周年の際に今後 10 年を見据えた上田 JC 未来ビジョンとして「笑顔あふれる地域～繋げよう輝く未来へ～」を策定した。また、認承 55 周年の際には 50 周年からの 5 年間の中期検証を行ったうえで 60 周年に向けた活動指針「人が集う上田 JC へ」が打ち出されそれに沿って活動している。ただ、そういった未来ビジョンを掲げ活動しているのは我々だけではない。活動圏域の各市町村がそれぞれ目指すべきビジョンを掲げそれに向かって活動している。上田青年会議所の活動圏域は上田市、東御市、坂城町、長和町、青木村の 5 市町村。それぞれ、抱えている問題も置かれている環境も生活している人々の考え方も違う。我々は、活動圏域の人々がどんな未来を描き、今それに向けてどんな取り組みをしているのかをきちんと理解したうえで活動圏域の未来を語らねばならない。また、未来ビジョンを考え未来を予測しながら行動するという

能力は、ただ想像すればよいものではない。環境の変化や価値観の変化、地域の人たちの求めることなどを総合的に考え組み立てていくような、いわば特殊な能力とも感じられるスキルである。未来ビジョンを達成するために検証、修正を行うためにも、まず、未来を想像できるスキルを身に着ける必要があると考える。上田青年会議所メンバーは、未来を創造し今を検証する能力を持つために自己研鑽に取り組みます。また新たな取り組みの一つとしてSDGsに注目します。世界を変えるための17の目標として日本のみならず世界で取り組みが始まっているこの指標をすべての事業において意識することで世界の目指す方向と地域の未来を横断的に考え施策を打ち出していきます。青年らしく大胆に、情熱をもって地域の輝ける未来の礎となるべく活動してまいります。

夢あふれる子育ての推進

「子供は無限の可能性を持っている」よく語られる言葉です。どんな勉強もできる。どんな職業も目指せる。誰とでも友達になれる。大人が思いもよらない想像ができる。前向きで明るい未来を期待したくなるような可能性ばかりです。

経済成長に伴い生活水準は向上したものの大人たちのゆとりが無くなりYouTubeやSNSなどに費やす時間が増え、地域の子供と大人の関係性も希薄になりやすくなってきている。親の子供への期待が学力や学歴に強く表れる状況もある。人とのつながりや様々な出来事を経験することは社会性や倫理観、積極性や自立を促すことにつながりとても大切ではあるが、それらすべてをバランスよく整備することを目指し子供たちの環境を用意することは簡単ではない。ただ、もう一度子供たちの置かれている環境を違う角度から見ると悲観することばかりではないと思う。情報技術の進歩にとってコミュニケーションの形も変わり多くの人と時間と距離、国や言語を超えて交流をすることができる。昔は図書館で調べてもなかなか見つけられなかった情報がネットで簡単に調べることができる。バーチャルに特殊な体験を簡単にすることができ、そこから興味を持ったことを追求し始めることも出来る。交通網の整備によって簡単に行ったことのない場所に行かれるし、ネットでは行ったことのない街も見ることができし宇宙から地球を見ることもできる。便利は使い方を誤ると子どもたちの成長には繋がりにくい、上手に理解し使うことで今まで以上の目標を目指すことができる道具でもある。今の子供たちは、昔に比べて大きな可能性を手にし、チャレンジできる環境があるのではないかと思う。ただ、その環境を用意するのは親である我々大人である。我々が子供のころ育った環境から何が大切だったのかを理解し、今の子供たちに伝えられるようにしなければならない。子どもの無限の可能性をより豊かに残し、親と共にあふれるほどの夢を養っていかれる「子育て」を進めてまいります。

魅力ある地域を発信

一般社団法人上田青年会議所の先輩が今から48年前に立ち上げた上田わっしょいは、市民総和楽の理念のもと、上田市民のみならず多くの地域のみなさまが参加し、地域の夏を心から感じることでのお祭りとしてなくてはならない事業となっている。私たちはこのお祭りから時間を超えて先輩が残してくれた地域への想いを継承し、かつ発展させていかなければならないと参加するたびに感じる。また、お祭りだけではなく、自然環境、食文化、特産品、歴史など、私たちの活動圏域には様々な特色がある。長い歴史のなかで培われてきたからこそ地域に根強く浸透し、なくてはならなくなっているものが多い。それらの地域の魅力を私たちは今一度認識し、語り継げるだけの理解をしなければいけない。わたしは地域の特色とは必ずしも特別に光るものばかりではないと思う。時代の成長と共に地域を牽引してきた業種や会社や団体、そこに生きる人たちのひたむきに活動する姿も地域の魅力なのだと感じる。大河ドラマ真田丸の放映により上田地域が全国の多くの人に認知された今、次なる地域の魅力を発信できるものはなにか。大河ドラマ真田丸から学んだことは、人の魅力に人は惹かれるということ。真田家の人々の魅力が全国の多くの人に伝わり、上田に來たい上田から感じたいと思ったのではないだろうか。世界を代表する会社を支える人、血のにじむような努力の末に結果を残し感動を与えてくれる人、豊かな自然から多くの恵みを生み食卓に笑顔を送らせる人、この地域を愛し支える人々が大切な地域の魅力ではないだろうか。その人々の背中から私たちは地域愛を学び、私たちもこの地域を盛り上げていきたいと感じるのだと思う。地域の人の魅力を発掘し、子どもから大人まで多くの人に愛される新たな魅力ある地域を発信します。

輝く人材の育成

1959年、明るい豊かな社会の実現をめざし、我々と同じ世代が熱い想いと使命を胸に立ち上がりこの地域にも青年会議所が誕生した。少しずつ、でも着実にまちづくりを実行しその想いを継承し続けたからこそ、今の地域があり青年会議所が存続していると感じている。昨今では情報技術の発達により多くの人と簡単にコミュニケーションがとることができ、情報も得ることができるため、あえて組織の一員となり顔を合わせて意見を交わし人に時間を合わせて行動を共にしなくても、ある程度物事を進めることができる時代になってきている。参加したいと思う事業だけに参加するという選択も自由として認められるのかもしれない。そんな時代に青年会議所の一員となり自分の時間を使い、人と議論を交わし行動を共にすることは負担ととらえられてしまう傾向がある。ただ、指先だけで交わした言葉では伝わらない、顔を合わせなければ感じられない想いと情熱が青年会議所にはある。「明るい豊かな社会の実現」という目的を共有した仲間と共にする時間の厚みが、その目的を達成するためのエネルギーとなり底力となるのではないだろうか。何か物事に本気で取り組む人

の姿は、人を魅了する力がある。何年も活動しないとわからない青年会議所の魅力では入会するきっかけにはなりにくいかもしれない。ただ、一生懸命にまちづくりに取り組む姿は初めて出会った人にも何かを感じさせることはできるかもしれない。我々自身が情熱の発信源とならなければいけないのだと思う。私たち青年会議所メンバー自身が成長することが拡大につながる。地域のために未来に挑む輝ける人材となるべく事業に取り組んで参ります。

事業を生かし地域とコミュニケーションする

有名な講演者を呼び、ムービーやスライドを駆使して事業を作ることは、参加者の満足度も高くなりやすく、評価も悪くはないと思う。昨今の情報技術を駆使することや予算さえ工面すれば可能なので短時間でも行いやすい。否定をするつもりはないが、誰でも出来ることとなりがちで、独自性が表しにくくなる。人は人に惹かれ刺激を受けるとしたら、これは有効な手段とは限らない。企画者の魂は、細かく一見伝わりにくいような部分の完成度を高めることで表ににじみ出るものだと思う。議案書の完成度を上げる、講師を呼ぶのではなく講師から学んで自分が講師になる。そんな姿から滲む思いは、覚悟さえ感じる。なんてことのない事業の一コマからでも自分の想いを発信し、参加者の心に刻むことのできる事業づくりができる。また、組織として情報を適切に発信し、反応をきちんと受け取ることは、コミュニケーションと同じであり、事業を行う上でとても重要なことである。しかし、たくさんの情報が様々な手法を用いて大量に飛び交っている昨今では、簡単なようで特別なスキルでもある。人やメディアとのつながり、伝える形、タイミングなど単年度で習熟できるものではない。青年会議所はこのスキルを磨き継承し資産にしていくことが重要だと考える。情報の発信、その反応を受取り適切に分析することは地域と青年会議所のコミュニケーションである。想いを込めた生きた事業を多くの地域の人たちに発信しコミュニケーションができる組織づくりに取り組みます。

未来を創造する経験

初めてのこと、苦手なこと、分からないことに取り組むのは、抵抗があり神経も体力も消耗するので出来るものなら避けたい。目的が達成できずにその結果に落胆することもあるかもしれない。人には理解されないこともあるかもしれない。必ずしも褒めたたえられるとは限らない。だから挑戦しない。では未来は変わらない。未来を変える訓練が青年会議所で挑戦することなのだと思う。人は皆未来を変える力を持っている。それは挑戦という行動である。挑戦した結果が未来を創る。失敗か成功かはその時の価値観でしかない。その先の未来では、その失敗があったからこそ成功につながるかもしれない。挑戦という誰でも持っている

る普通の力を思う存分使い、精一杯青年会議所で未来を創造する経験をつもう。

【基本事業】

- ・メンバー全員による会員拡大運動の実施
- ・SDG s を意識した事業の実施
- ・未来ビジョン達成に向けた事業の実施
- ・子育ての推進を目指した事業の実施
- ・地域ブランドの発信を目指した事業の実施
- ・人間力開発を目指した研修事業の実施